

発刊にあたり

東京都歯科医師連盟 副会長

佐藤 剛



このたび、東京都歯科医師連盟創立70周年に際し、50周年、60周年と同様に記念誌を上梓することとなりました。

この10年を振り返りますと、2011年3月に東日本大震災および福島第一原子力発電所事故という我が国全体を震撼させる事態が生じ、引き続いて熊本地震や北海道胆振東部地震、そして日本各地で起こった巨大台風の襲来や未曾有の集中豪雨など、国民は常に災害との戦いの日々を強いられました。そして最後に我々に降りかかってきた災いは、世界中にパンデミックをもたらした全く予期せぬ新型コロナウイルス。このコロナ禍により、医療界にも大きな混乱をもたらし、国内のほとんどの産業が大打撃を受け現在に至っております。

そうした激動とも言うべき10年でしたが、その間に約30年続いた平成は幕を閉じ、令和という新たな時代を迎えました。

国政においては民主党政権から自公連立政権へと移行し、7年8か月という歴代最長の安倍晋三内閣が誕生し、現在の菅義偉内閣へ政権のバトンが引き継がれました。この間、国際情勢も大きく変化し、日韓問題や北朝鮮問題、新たに米中対立という構図も生まれ、政府の外交姿勢も一段と難しくなる時期を迎えています。

国内に目を向けますと、超高齢社会に入り社会保障費が年々伸びていく中で、国家予算には限りがあり、我々の歯科医療を取り巻く環境も厳しい状態が続いています。しかしながら、その中で歯科系国会議員の方々の多大な後押しをいただき、歯科医療の重要さが徐々に国民の中に浸透してきていることは確かであり、これを裏付けるように歯科口腔保健法の制定や、政府の政策基盤である「骨太の方針」の中に歯科口腔の文言が毎年載るようになり、これは我々歯科医療従事者が、厳しい中であっても治療の水準を落とすことなく努力をし続けた成果であり、この事実を理解して我々の味方となり様々な政策を打ち出してくれている議員の方々の力を忘れてはならないでしょう。このような謂わば歯科への追い風を継続させていくためには、今後も当然のことながら地道なる連盟活動がますます必要不可欠となります。

こうした時代背景において、東京都歯科医師連盟は会員の先生方のご協力を得ながら、役員委員一同粛々と会務に取り組んでまいりました。結果として、東京都議会議員や東京都選出の国会議員の先生方との信頼関係をより一層深めることに繋がり、目に見えない部分も含めて東京都の会員に有益な結果をもたらすことができたと自負しております。しかしまだまだ道半ばであり、未入会率も思うようには改善しておらず、財務状況をひとつ見ても余裕はまったくありません。

そうした中で、本記念誌の発刊についても行うべきかどうかの議論が交わされましたが、過去の連盟活動の記録を残しながら、その教訓を生かして明るい未来へ向かって行くことこそ重要であるという視点に立ち、発刊する決断をいたしました。どうかその点を踏まえてご覧をいただけますと幸いに存じます。

結びになりますが、この10年間の連盟活動をお支えいただいた全ての方々に敬意と感謝の念を申し上げますと共に、本記念誌発刊に際しご尽力いただきました広報委員会の先生方と一世印刷様、事務局員の皆様に厚く御礼申し上げます。